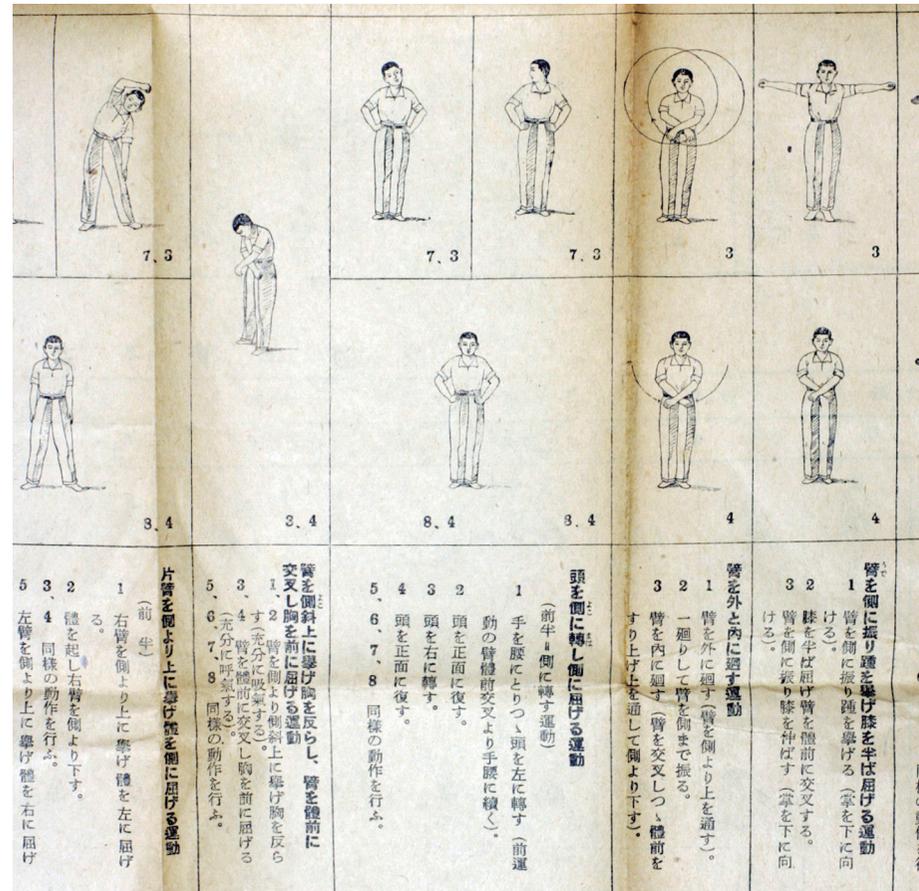


戦時色の深まり（大日本国民体操）



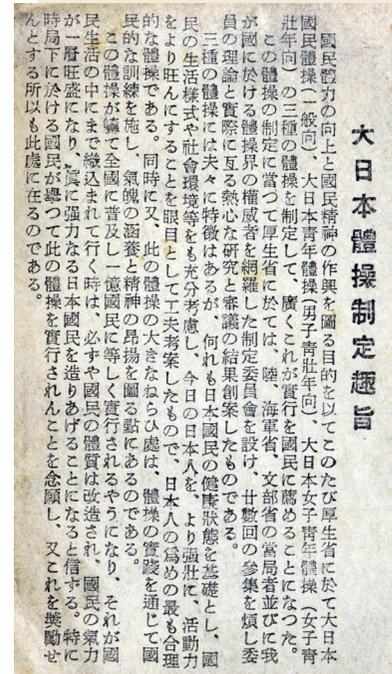
* 文書館図書781「大日本国民体操」

解説

ラジオ体操は、1929（昭和4）年、通信省簡易保険局の提唱で、アメリカのメトロポリタン生命保険会社の健康体操の放送を手本に、国民の健康の保持増進のために始められました。各家庭へのラジオの普及と相まって、ラジオ体操は国民の生活に急速にとけ込んで行きました。特に、児童生徒の夏休みに合わせて行われた、夏のラジオ体操の会は、その普及に大きく貢献しました。1932（昭和7）年には、第二体操も作られました。

国民の健康増進のために始められたラジオ体操も、戦時色の深まりとともに、国民の体力増強と精神面の統制、更に愛国精神を湧き起こさせる効果が期待されるようになりました。1939（昭和14）年、厚生省は国民体力の向上と国民精神の作興を目的に、「大日本国民体操（一般向）」「大日本青年体操（男子青壮年向）」「大日本女子青年体操（女子青壮年向）」の3種類の体操を発表し、その中の大日本国民体操が「ラジオ体操第三」とされ、同年12月1日から放送されました。

左の資料の表面には「大日本国民体操」が、裏面には「大日本青年体操」「大日本女子青年体操」の動作の一つ一つが、図解説明されています。



* 同資料「大日本国民体操制定趣旨」の箇所